

千葉県銚子市（国内 45 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 29 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（24 万羽）

発生家きん舎の構造：セミウインドウレス鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（2 階建て直立 7 段ケージ 6 列、通路 4 本）

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、平野部にある丘陵地に位置しており、周囲は畑及び森に囲まれていた。当該農場の近くには養豚農家や、養鶏農場の堆肥処理施設があるとのこと。
- ② 当該農場の周辺では、本年 1 月中旬以降、本病の発生が複数例確認されており、当該農場の東 600m には、国内 28 例目（千葉県 2 例目）の発生農場が存在している。
- ③ 当該農場は、セミウインドウレス鶏舎 8 棟、堆肥舎 3 棟、集卵施設で構成され、東西方向に鶏舎が並んで配置されていた。発生鶏舎は東側から 3 番目に位置しており、内部には直立 7 段ケージ（1 階部分 3 段、2 階部分 4 段）が 6 列配置されていた。

3 通報の経緯・発生時の状況

- ① 農場長によると、発生鶏舎（通報時約 170 日齢）における通常の死亡羽数は、1 日当たり平均 3 羽程度であるが、1 月 27 日の朝の見回りの際、隣り合った 2 ケージで 4 羽まとまって死亡しているのが確認されたため、同日、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 発生ケージは、発生鶏舎 1 階奥側中央列の下から 2 段目に位置しており、最初に隣り合った 2 ケージのみ死亡が確認されたが、しばらくして確認したところ、背面のケージでも死亡が確認されたとのこと。なお、その他の場所では死亡は散在しており、発生鶏舎内で計 10 羽の死亡鶏が確認されたとのこと。なお、発生前の産卵率低下、食欲減退などはみられず、他の鶏舎でも特段の異状は確認されなかったとのこと。

4 管理者及び従業員

- ① 当該農場には、農場長を含め従業員が 13 名おり、そのうち 8 名が鶏舎内の飼養管理、残り 5 名が集卵作業を担当していたとのこと。なお、鶏舎内の飼養管理を行う従業員は、鶏舎ごとに担当が分かれてはいないとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 当該農場には入口が 2 箇所あり、いずれも関係者以外立入禁止の看板が掲示され、車両消毒用の動力噴霧器が設置されていた。また、農場の外周にはフェンスが設置されていた。
- ② 農場長によると、従業員及び外部業者（集卵業者及び堆肥搬出業者）が衛生管理区域に立ち入る際は、更衣室で場内専用作業着、長靴に履き替え、手指消毒を実施していたとのこと。また、鶏舎エリアの入口には踏込消毒槽（逆性石鹼、1 日 2 回交換）が設置されていた。
- ③ 農場長によると、従業員が鶏舎内に立入る際は、鶏舎入口に設置された踏込消毒槽（塩素系消毒薬、1 日 2 回交換）で長靴を消毒し、鶏舎専用長靴への交換、手指消毒を実施していたとのこと。
- ④ 発生鶏舎では、天井部のモニター及び鶏舎側面に開口部があったが、冬場は鶏舎側

面についてはカーテンで閉め切っており、天井モニター部からのみ外気を導入していた。モニター部の開口度合いの調整は自動制御とのことであった。なお、天井のモニター部と鶏舎側面の開口部には金網が設置されており、破損箇所等は確認されなかった。また、各鶏舎は、屋根の上から鶏舎全体を覆うように防鳥ネットが張られており、ネットの端は土嚢で固定されていた。

- ⑤ 給与水には、消毒済みの地下水を使用しているとのこと。
- ⑥ 飼料タンクには蓋が設置されており、閉鎖系ラインにより鶏舎に供給されていた。
- ⑦ 鶏卵は集卵ベルトにより毎日集卵施設に搬出されており、集卵ベルトの鶏舎出口には金属製のシャッターが設置されていた。
- ⑧ 鶏糞は、週2回、除糞ベルトを稼働させて鶏舎から堆肥舎に搬出しているとのこと。鶏舎内にある除糞ピットには蓋等の設置はなかったが、鶏舎外出口には防鳥ネットが設置されており、除糞コンベアにはカバーが設置され、堆肥舎に直結していた。堆肥舎内の堆肥は、堆肥置場横に設置された縦型コンポストで発酵処理後、農場外にある系列の堆肥処理施設で乾燥処理されているとのこと。
- ⑨ 当該農場ではオールイン・オールアウトを実施しており、オールアウト後は鶏舎内の清掃・消毒等を実施するため、3週間程度の空舎期間を設けているとのこと。
- ⑩ 農場長によると、死亡鶏及び集卵施設から出る不適合卵は高温発酵処理機により発酵処理をしているとのこと。
- ⑪ 農場長によると、周辺での本病発生を受け、鶏舎周囲や農場内道路に液状消毒を毎日実施していたとのこと。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場長によると、農場周辺でネコやイタチを見かける他、農場上空ではカラスを見かけるとのこと。また、調査時、農場周辺で猛禽類の飛翔を確認した他、農場敷地内西側の空き地や鶏舎と堆肥舎間の通路においてスズメ、セキレイを確認した。
- ② 農場長によると、ネズミ対策として鶏舎内に殺鼠剤を設置しているが、発生鶏舎は導入後それほど月日が経過していない鶏群であるため、殺鼠剤が食べられた形跡はないとのこと。調査時、発生鶏舎では、ネズミの存在を示す明確な痕跡は確認されなかった。

(以上)